



登米地域の稲作通信 第8号

令和6年8月30日発行
宮城県米づくり推進登米地方本部
宮城県登米農業改良普及センター
Tel: 0220-22-6127

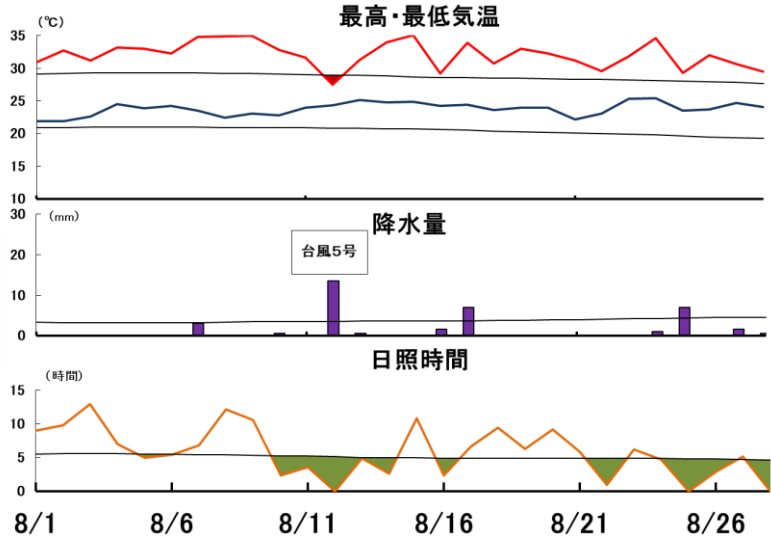


<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>

1 気象経過

8月は気温の高い日が続き、上旬、中旬の最高気温は、3℃以上高く推移しました。降水量の平年比は上旬で11%、中旬で62%と雨の少ない期間となりました。また、8月12日は台風5号の接近に伴い、降水量は13.5mmとなりましたが、大きな被害が出るほどの大雨とはなりません。日照時間の平年比は上旬で148%、中旬で112%と多照となりましたが、下旬(8/21~8/28)は平年比67%と少照傾向となりました。

観測地点：米山アメダス



2 生育状況

【水稻生育調査結果(移植)】

| No. | 品種 | 栽培タイプ | 調査地点 | 栽植密度(株/m ²) | | 田植月日(平年差) | 出穂期 | 出穂後25日調査結果 | | | | | | 刈取適期予測 | |
|-----|-------------|-------------|------|-------------------------|-------------------------------|---------------------|--------------------|--------------------|----------------------|----------------------|-----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|-----------------------|
| | | | | | | | | 葉色(GM) | 稈長(cm) | 穂長(cm) | 穂数(本/m ²) | 葉色(GM) | 1穂粒数(粒) | | m ² 粒数(千粒) |
| 1 | ひとめぼれ | Cタイプ | 中田町 | 15.9 | 前年比・差 +5日 平年比・差 +4日 | 5月19日 +5日 | 8月6日 +1日 | 35.2 1.8 2.8 | 95.1 117% 113% | 20.3 109% 110% | 469 106% 107% | 35.2 5.4 5.3 | 83.5 117% 126% | 39.2 124% 137% | 9月16日 |
| 2 | ひとめぼれ | Cタイプ | 登米町 | 16.0 | 前年比・差 ±0日 平年比・差 ±0日 | 5月16日 ±0日 | 8月1日 +1日 -4日 | 33.6 2.4 1.2 | 90.4 114% 108% | 19.4 107% 105% | 464 115% 108% | 29.6 0.3 -1.3 | 77.1 108% 108% | 35.8 124% 116% | 9月10日 |
| 3 | ひとめぼれ(晩期栽培) | - | 米山町 | 20.8 | 前年比・差 — 平年比・差 — | 5月29日 — | 8月10日 — | 40.6 — — | 未実施 | | | | | | 9月22日 |
| 4 | ササニシキ | Cタイプ(復活サシキ) | 豊里町 | 14.8 | 前年比・差 +1日 平年比・差 +1日 | 5月13日 +1日 | 8月3日 +3日 +1日 | 32.4 1.3 0.0 | 81.3 107% 103% | 18.8 104% 103% | 361 106% 90% | 25.0 -0.4 -4.4 | 81.8 107% 100% | 29.5 114% 92% | 9月12日 |
| 5 | つや姫 | Cタイプ | 迫町 | 15.3 | 前年比・差 — 平年比・差 — | 5月6日 — | 8月4日 — | 35.7 — — | 84.3 — — | 17.8 — — | 419 — — | 32.0 — — | 74.6 — — | 31.3 — — | 9月19日 |
| 6 | だて正夢 | - | 迫町 | 19.3 | 前年比・差 -7日 平年比・差 -1日 | 5月14日 -7日 -1日 | 8月4日 -2日 -2日 | 38.2 4.3 1.9 | 93.1 106% 102% | 20.1 100% 103% | 376 96% 92% | 37.5 2.2 1.3 | 84.6 90% 95% | 31.8 87% 88% | 9月16日 |
| 7 | 金のいぶき | - | 登米町 | 16.5 | 前年比・差 +5日 平年比・差 +2日 | 5月14日 +5日 +2日 | 8月8日 +6日 +3日 | 33.5 4.4 3.1 | 未実施 | | | | | | 9月25日 |
| 8 | つきあかり | - | 豊里町 | 19.3 | 前年比・差 — 過去2か年平均比・差 — | 5月4日 — — | 7月23日 — — | 33.5 — — | 76.3 — — | 18.6 — — | 303 — — | 32.5 — — | 97.8 — — | 29.6 — — | 9月2日 |

※栽培タイプ

Cタイプ：農業・化学肥料節減栽培（慣行栽培の5割減；農薬8成分、化学窒素成分3.5kg以下）

※平年値は、過去5か年（令和元年～令和5年）の平均値。

ただし、金のいぶきは調査4年目のため、過去3か年（令和3年～令和5年）の平均値。

※気温の積算値は8月30日までは実測値。8月31日以降はアメダス(米山)の平年値を用いた。

※適期刈取予測は、出穂後積算平均気温で下記の温度に達した日とした。

ひとめぼれ・ササニシキ：1,000℃、だて正夢：1,040℃、つきあかり：1,050℃、つや姫、金のいぶき：1,100℃

※ひとめぼれ(晩期栽培)、金のいぶきについては出穂後25日調査未実施のため、後日調査を行う。

出穂後25日調査時点の生育状況は、管内の生育調査ほのひとめぼれについては、m²当たり穂

数、1穂粒数が平年を上回ったため、㎡当たり粒数が平年を上回りました。だて正夢は㎡当たり穂数、1穂粒数が平年を下回ったため、㎡当たり粒数が平年を下回りました。
つきあかりの刈取適期予測は9月2日と、間もなく成熟期に達すると思われます。

【水稲生育調査結果(乾田直播)】

| No. | 品 種 | 栽培タイプ | 調査地点 | 播種月日 | 苗立ち本数 (本/㎡) | 出穂期 | 出穂後25日調査結果 | | | | | | | 刈取適期 予測 |
|-----|-------|--------------------|--------------|-------|----------------|------|-------------------|------------|------------|-------------|------------|-------------|-------------|------------|
| | | | | | | | 穂揃期 葉色 (GM) | 穂長 (cm) | 穂長 (cm) | 穂数 (本/㎡) | 葉色 (GM) | 1穂粒数 (粒) | ㎡粒数 (千粒) | |
| 2 | ササニシキ | アヲ耕 ケレンドリ 体系 | 米山町 (中津山) | 4月26日 | 79 | 8月3日 | 35.6 | 83.1 | 19.7 | 401 | 35.0 | 98.9 | 39.7 | 9月12日 |
| | | | | 前年比・差 | 70% | -3日 | 5.7 | 105% | 106% | 135% | 5.1 | 111% | 150% | |
| | | | | 平年比・差 | 103% | -5日 | 1.9 | 96% | 102% | 105% | -0.1 | 97% | 101% | |

※ササニシキは調査4年目のため過去3か年の平均値を使用。

※気温の積算値は8月28日までは実測値。8月29日以降はアメダス(米山)の平年値を用いた。

※適期刈取予測は、出穂後積算平均気温でササニシキ1,000℃に達した日とした。

乾田直播栽培調査ほのササニシキの出穂期は8月3日となり、平年より5日早くなりました。
出穂後25日調査時点の生育状況は、1穂粒数が平年をやや下回りましたが、㎡当たり穂数が平年を上回ったため、㎡当たり粒数は平年を上回りました。

【管内の出穂状況】

| 地帯区分 | 出穂始期 | | 出穂期 | | 穂揃期 | |
|------|------------|-------|------------|------|-----------|-------|
| | 令和6年 | 平年 | 令和6年 | 平年 | 令和6年 | 平年 |
| 北部平坦 | 7月26日 (-3) | 7月29日 | 7月30日 (-2) | 8月1日 | 8月5日 (-2) | 8月7日 |
| 三陸沿岸 | 7月27日 (-3) | 7月30日 | 7月31日 (-2) | 8月2日 | 8月7日 (-3) | 8月10日 |
| 管内 | 7月26日 (-3) | 7月29日 | 7月30日 (-2) | 8月1日 | 8月5日 (-2) | 8月7日 |

※出穂始期・出穂期・穂揃期は、それぞれほ場の50%以上出穂した面積が5%、50%、95%に達した日。
※平年値は、過去5か年(令和元年～令和5年)の平均値。

管内の出穂期は平年より2日早い7月30日となりました。穂揃期は平年より2日早い8月5日となりました。

3 今後の管理

(1) 適期刈取

1) 出穂後の積算平均気温による刈取時期の判定

品種別出穂後積算平均気温による刈取適期の目安

| 品種 | 出穂後積算平均気温 | 出穂後日数 | 品種 | 出穂後積算平均気温 | 出穂後日数 |
|---------|------------|--------|-------|--------------|--------|
| ひとめぼれ | 940~1,100℃ | 40~45日 | だて正夢 | 1,020~1,060℃ | 50日前後 |
| まなむすめ | 960~1,050℃ | | 金のいぶき | 1,050~1,150℃ | 50~55日 |
| ササニシキ | 930~1,150℃ | 45~50日 | つや姫 | 1,000~1,200℃ | 48~60日 |
| みやこがねもち | 950~1,150℃ | | つきあかり | 1,000~1,100℃ | 38~43日 |

刈取時期が遅くなるほど整粒歩合は低下し、その他未熟粒、基白粒が増加します。特に、出穂後積算気温が1,200~1,300℃になると、胴割粒等も発生して整粒歩合はさらに低下します。

今年も昨年と同様、高温の影響により、登熟は平年よりも早まると見込まれます。コンバインや乾燥機の点検などを進め、刈取適期になったら速やかに刈取りができるよう準備しておきましょう。刈遅れによる胴割粒や着色粒などの品質低下を防ぐため、籾の熟色等をよく観察し適期刈取りに努めましょう。

出穂期からの積算平均気温に基づく刈取適期予測

| 品種 | 刈取適期 | 出穂期 | | | | | |
|-------|------------|----------|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | | 7月24日 | 7月28日 | 7月30日 | 8月1日 | 8月4日 | 8月6日 |
| ひとめぼれ | 940～1100℃ | 8/29～9/4 | 9/2～9/9 | 9/5～9/11 | 9/7～9/14 | 9/11～9/18 | 9/13～9/21 |
| ササニシキ | 930～1150℃ | 8/29～9/6 | 9/2～9/11 | 9/4～9/14 | 9/7～9/16 | 9/10～9/20 | 9/13～9/23 |
| だて正夢 | 1020～1060℃ | 9/1～9/2 | 9/6～9/7 | 9/8～9/9 | 9/11～9/12 | 9/15～9/16 | 9/17～9/19 |
| 金のいぶき | 1050～1150℃ | — | 9/7～9/11 | 9/10～9/14 | 9/12～9/16 | 9/16～9/20 | 9/1～9/23 |
| つきあかり | 1000～1100℃ | 9/1～9/4 | 9/5～9/9 | 9/8～9/11 | 9/10～9/14 | 9/14～9/18 | 9/16～9/21 |
| つや姫 | 1000～1200℃ | — | 9/5～9/13 | 9/8～9/16 | 9/10～9/19 | 9/14～9/23 | 9/16～9/26 |

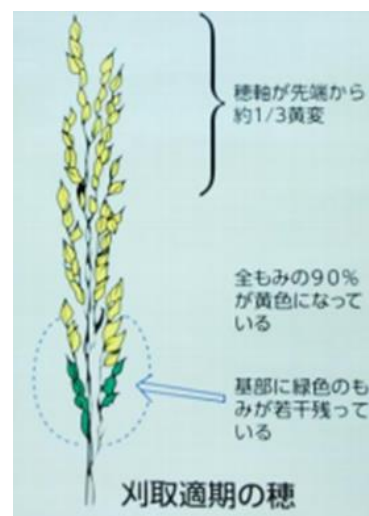
※気温の積算値は8月28日までは実測値。8月29日以降はアメダス（米山）の平年値を用いた。

2) 籾の黄化程度

刈取始期は、籾の黄化程度で判断します。ほ場全体を平均して籾の80～90%程度が完全に成熟して黄色になり、穂軸が先端から3分の1程度黄変した時期が刈取始期となります。

稔実籾の平均水分は降雨によりバラツキを生じるものの、「ひとめぼれ」、「ササニシキ」、「まなむすめ」では、登熟期間全体を通してみれば、平均気温の積算値が約50℃増えるごとに稔実籾の平均水分が1%減少するというデータがあります。今年は、今後も高温が続くと予想されています。籾の状態をよく観察し、刈遅れにならないように注意しましょう。

昨年、金のいぶきのほ場では刈遅れや倒伏していないほ場でも穂発芽が発生し、品質が低下しました。刈取適期を逃さないようにしましょう。



(2) 収穫作業

- コンバイン収穫で、籾水分が25.0%以下になってから刈取作業を行いましょう。
- 複数の品種の刈取りを行う場合には、品種が替わる際に十分な清掃を行い、異品種の混入を未然に防ぎましょう。
- クサネムやツヨクサは、脱穀時に種子が混入すると、揺動式比重選や粒径選でも取り除くことができないので、収穫作業前に必ず抜き取りましょう。

<籾熟色によるコンバイン収穫期の予測判定>

ひとめぼれでは、平均的穂数株(枝梗数 8)の中位二次枝梗籾の籾色を観察することにより成熟段階を判定でき、刈取適期を予測できます(図 参照)。

- ◆成熟段階Ⅰ：第1位籾が急速に黄化開始。
 - ◆成熟段階Ⅱ：第1位籾がほぼ(90%)黄化。(7日以内で刈り取り早限)
 - ◆成熟段階Ⅲ：第1位籾がほとんど(95%)黄化し、第2・3位籾が黄化開始(刈り取り早限)
 - ◆成熟段階Ⅳ：第1位籾の黄化100%、第2・3位籾の30%が黄化(積算温度1000℃程度)
- } 刈取適期

◆成熟段階V：第2・3位粒が50%以上黄化（刈取り晩限）

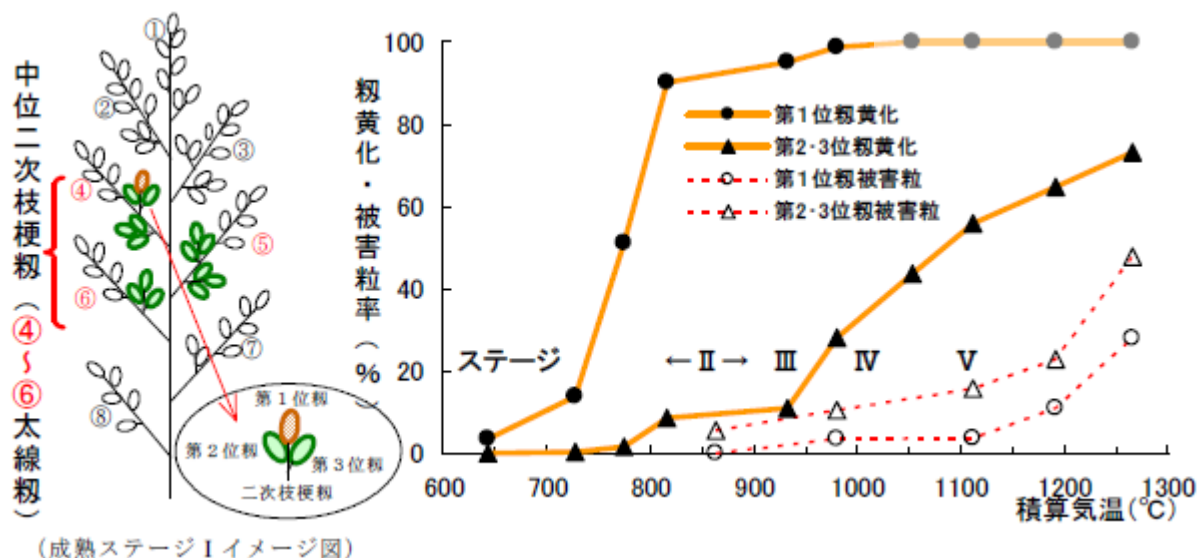


図 積算温度と穂の中位二次枝梗粒黄化率の推移

(3) 乾燥・調製

○コンバイン収穫した生粒を放置すると発熱して変質米の原因になるので、刈取り後は、速やかに乾燥機に張り込み、送風循環しましょう。

○倒伏した稲や未熟粒の多い稲などは高水分粒の混入が多いため、過乾燥となりやすく、胴割米の発生・碎粒の増加・光沢の低下など品質低下を招きます。

高水分粒を機械乾燥する場合は、二段乾燥を行い、水分ムラや胴割米の発生などを抑えましょう。今年も出穂後の高温が連続しており、特に胴割粒の発生が懸念されるため、二段乾燥に努めましょう。

※二段乾燥とは：粒水分が18.0%程度になったら火力乾燥を一時中断し、一定時間通風循環後、仕上げ乾燥を行う。

○仕上がり玄米水分14.5%~15.0%が目標です。

○粒摺りは、肌ずれ防止のため、粒の温度を室温まで下げてからおこないましょう。また、ローラー式粒摺機の場合は、粒（品種）に見合った適正なローラー間隔に調整しましょう。

今年も出穂後に高温が連続しているため、白未熟粒の発生による落等が懸念されます。可能であれば色彩選別機を使用しましょう。

○異品種の混入を防ぐため、品種が変わる毎に機械類の清掃を行いましょう。

農作業安全確認運動（9月1日~11月30日）

『徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策』